

蔵通り

結城明治初期から大正期にかけて蔵造りの建物が数多く建築された。今でも30を超える建物が保存されており、以前の城下町の趣残る町並みを見ることが出来る。暮盤の目のような道がその一つで、駅から5分程歩いたあたりに、全長500mの道が50間(約90m)ずつの幅で二本通っている。まるで漢字の「田」のようだ。

駅から見てその二本目の道を細問屋街と言う。その名の通りこの道には細の間屋が軒を並べている。ここでは反物の販売は勿論のこと、店内や細の見学、それに細に関するお話も聞かせてもらえる。昔ながらの蔵作りの街並みのなかで、結城の歴史と、結城細の奥深さに触れてみるのはどうだろうか。



奥庄

駅前通りから問屋街に入って左手に位置するここは創業170年を誇る、結城で一番古くからある縞屋。ごだんまりとした入り口を入ると、やさしそうな店主が迎え入れてくれる。

定休日 土・日・祭日
営業時間 8時半~17時半
0296(32)2211
住所 結城市大町24



藤貫

創業150年。店主の花田毅さんは「縞屋は細のプロデューサー」と語り、古い型にはまることなく常に新しい模様作りに励んでいる。縞屋の間でも、反物の数は少ないものの素敵なものがあると評判だ。結城細の「温もり」を今に伝えている。

定休日 土・日曜
営業時間 8時半~17時
0296(33)3107
住所 結城市大町83



奥順カフェ ギヤラリー

吉の蔵

問屋街に素敵なお店がある。明治始めに建てられた蔵を改装したカフェギヤラリー「吉の蔵」だ。黒と白を基調とした店内は、展示されている着物の鮮やかな色彩をひきかたえている。一階はシックなテーブル席で、二階は座敷になっている。窓から結城の町並みを望みながら一息つく、そんな最高の時間が楽しめる空間だ。

ギヤラリー内にある着物は、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受けた、工芸作家(染織)の志村ふくみさんの作品。志村さんの作品の魅力は、自然界の植物から丹念に採取して絹糸に移し換えた、きわめて豊かな色彩にあり、ご本人も草木染に際し「草木の抱く色をいたただく」と表現するほど素材となる自然の恩恵を大切にしている。

志村さんの作品は結城細ではないが、今後の結城細にとってよい刺激になればと考えているそうだ。

蔵作りとは？

蔵づくりとは、外壁を土塗り漆喰仕上げで厚く塗り籠めた木造防火建築のことで、日本では既に古代から建築され続けてきた伝統的な工法。しかし、一般的に普及しはじめたのは江戸時代に入ってからで、特に江戸市内の防火対策として幕府が蔵作りを奨励した享保の時代以降、一段とその数を増やしたといわれている。同時にその頃から、より重厚な蔵造りの形式が発生し、やがて江戸特有の蔵造りとして、関東各地の町並み特徴付けられることになった。一般に蔵造りの建物は、店舗を蔵造りとした見世蔵と倉庫を蔵造りとした土蔵に代表される。

結城においては、このほかにも見世蔵や土蔵と同じ目的・用途で店舗や倉庫(塗屋、石蔵、煉瓦蔵など)も立てられた。

